

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会
第 39 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2015 年 11 月 12 日 (木) 13:30～15:00
2. 場 所 (一社) 原子力安全推進協会 第 1, 2 会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 鈴木 (主査), 渡邊 (副主査), 中川 (幹事), 望月, 広木, 矢野,
下家, 石井, 伊藤, 天間 (上坂代理), 松藤 (萬年代理), 中川,
一森, 本田 (金島代理), 三好 (15 名)
(欠席委員) 大木, 橘高, 遊佐, 新井, 大城戸 (5 名)
(常時参加者) 中野, 室, 伊藤
4. 配布資料
資料P14SC-39-1 第38回PLM分科会議事録案
P14SC-39-2 人事
P14SC-39-3 PLM実施基準2015年本格改定版(追補1反映版)の制定
P14SC-39-4-1 PLM実施基準2016年版(追補2改め追補1)案の確認結果
P14SC-39-4-2 PLM実施基準2016年版(追補1)案の
システム安全専門部会本報告案
P14SC-39-5 PLM実施基準2008年版のJSME誤記問題対応方針及び状況
P14SC-39-6 PLM実施基準の講習会実施(案)
P14SC-39-7 PLM実施基準の改定のスケジュール
(P14SC-39-4-2のうち, 経年劣化メカニズムまとめ表はメールで回覧)
参考資料
P14SC-39-参考1 JSME規格誤記問題を踏まえた日本原子力学会の対応について
(SC62-14)
5. 議事
会議に先立ち, 原子力エンジニアリングの中川委員が幹事として指名された。出席委員は 15 名で, 定足数を満足している旨確認した。
 - (1) 前回議事録確認 (P14SC-39-1)
幹事より, 第 38 回 PLM 分科会議事録 (案) が紹介され, 承認された。
 - (2) 人事 (P14SC-39-2)
 - ・委員の退任
萬年委員, 金島委員の退任が報告された。
 - ・委員の新任
新委員として東電設計の松藤氏, 関西電力の北条氏が推薦されている旨説明され, 審議の結果新委員として選任された。

(3) PLM実施基準2015年本格改定版（追補1反映版）の制定（P14SC-39-3）

第62回標準委員会でPLM実施基準の修正及び発行についての報告・審議の結果、修正内容で制定されたこと及びPLM実施基準2014年本格改定版とPLM実施基準2015（追補1）を合本して、PLM実施基準2015年本格改定版として発行することが報告された。

PLM評価書の記載を根拠としているような場合、数値の根拠が分からないものがある可能性があるため、次回の本格改定の際には特に注意して確認することとなった。

(4) PLM実施基準2016年版（追補2改め追補1）案の確認結果（P14SC-39-4-1）

電力共通技術基盤からまとめ表に反映が必要となる項目はないことを確認した。

(5) PLM実施基準2016年版（追補1）案のシステム安全専門部会本報告案（P14SC-39-4-2）

解説表A.2のコンクリートの塩分浸透による強度低下の抽出の考え方を、熱による強度低下に合わせ、誤記を修正したものを専門部会で報告することとなった。

(6) PLM実施基準2008年版のJSME誤記問題対応方針及び状況（P14SC-39-5）

PLM実施基準2008年版の誤記確認を各委員で分担して実施することとなった。

まとめ表の誤記確認の中で、部位等を一般的な表現に統一している場合があるため、詳細版を参照して、統合されていることが分かればそれは誤記ではないということを確認した。また、気付き事項は全て挙げることとなった。

(7) PLM実施基準の講習会実施（案）（P14SC39-6）

PLM実施基準2015年本格改定版がまもなく発行されることから、来年春頃に実施することとなることを確認した。

テンプレートを用意して、各担当で資料を作成することとなる。

他の基準の講習会の状況や標準の販売価格を踏まえて、実施規模や価格等の検討を行うこととなった。

7. 今後のスケジュール等

次回分科会はシステム安全専門部会の日程を確認し、開催日を調整することとなった。

エンドースは技術評価されたものが規制文書に取り込まれることを意味するので、資料 P14SC-39-7 の改定スケジュールに記載しているエンドースは、正確には技術評価という表現になることを確認した。

以 上